新たなインターンシップの「形」が生み出したもの

湯沢市商工課の事業としてスタートとした事業参画型インターンシップは、これまで、インターン生22人、受け入れ企業11社、15件のプロジェクトが実施されました。職場体験や社会貢献を目的とした従来の体験型インターンシップと異なり、事業参画型インターンシップは、実際の仕事の現場に入り、1カ月の短期から4カ月以上の長期にわたって取り組むことが大きな特徴です。

本事業を通して、受け入れ先だった株式会社雄勝野きむらやに就職した加藤美空さん。そして、同社代表取締役の木村吉伸さんのお二人に、事業参画型インターンシップでの出会いから採用に至るまでの経緯などをお聞きしました。また、経営者と学生が全力でインターンシップに取り組めるように多方面からサポートしてきた、みちのくリメイカーズ合同会社代表の豊留侑莉佳さんに、本事業に対する思いや成果についてお話を伺いました。

インターンシップ活用で見えた今後の展望

事業参画型インターンシップ × 株式会社 雄勝野きむらや

株式会社 雄勝野きむらや
代表取締役 木村 吉伸（きむら よしのぶ）さん

「いぶりがっこ」を、初めて商業化した老舗漬物屋。昭和38年の創業以来、3代に渡り湯沢の漬物文化の味を守り続けている。

営業販売部 渉外担当 加藤 美空（かとう みく）さん

神奈川県出身。令和4年度、国際教養大学在学中に、株式会社雄勝野きむらやでインターンシップ生として活動。昨年10月入社。

——事業参画型インターンシップを利用した理由を教えてください。

木村社長（以下「木」） 今後の会社運営、存続を考えたとき、若者の思想や感性、ニーズを知ることが必要だと感じていました。しかし、地域や業種的に若い働き手の確保が難しいため、この事業を活用してみようと思いました。

加藤さん（以下「加」） 私は学生のころから、起業を通じて社会課題の解決に取り組みたいと考えていました。卒業後の進路を考えた時、まずは秋田に来て肌で感じた地域課題に向き合ってみようと思い、在学中にインターンシップに参加することを決めました。また、地元企業の経営戦略に携わることで、より具体的に地域が抱えている課題を理解できるのではないかと考え、事業参画型インターンシップを選びました。

——インターンシップを経験して感じたことを教えてください。

加 特に地域でのインターンシップにおいて欠かせないのは、学生と企業との間でのコミュニケーションだと感じています。学生が達成したいことと企業が期待する結果が一致しないとインターン期間の成果は十分に得られません。そのギャップを埋めるためには、双方の期待を言語化し擦り合わせることが非常に重要だと感じました。

——加藤さんが、きむらやに就職したいと思った理由を教えてください。

加 インターンシップの経験から、木村社長が人材に投資し挑戦の機会を提供してくれると確信していましたので、入社後のギャップは少なくすぐに業務に取り掛かることができると思い、入社を決意しました。また、海外販路の開拓やインターネット分野の強化など自身の強みを活かして会社に貢献できるという期待を持って働ける環境であったことも決め手の一つです。

——加藤さんから就職したいと聞いて、どう思いましたか。

木 最初はとても驚きました！面接では親御さんは了解しているのか？とか、本人の志望理由や意志の固さを何度も確認しました。彼女の能力があれば、大手企業にも採用される"人財"だと思っていたからです。と同時に、過疎化、高齢化、低所得など、課題が山積みな地域にあり、いぶりがっこや秋田漬物、発酵、手作りというアナログな産業にあえて飛び込むという決意に彼女のセンスの良さを感じました。ここでしか得られない課題を見出し解決することは、彼女のキャリア形成の場として働き甲斐があるのではないか…と思いました。

——これから、どのようなことに挑戦していきたいですか。

加 「いぶりがっこ」の価値は、地域に根ざした暮らしの歴史やその生産背景に込められていると考えます。現在は海外事業を担当していますので、学生時代に習得した語学やコミュニケーション力を活かし、商品

（次ページへ）

の価値を国を越えて届けられるような販路開拓を行いたいです。さらにインターネットの活用にも力を入れ、秋田の漬物をより幅広い層に届けられるよう事業をアップデートしていきたいです。

木　海外の販路開拓は言葉の壁があり、現地のニーズの把握や契約など、商業流通に結び付けるのに難儀しておりました。しかし、加藤さんは語学が堪能なので、海外販促に向けての道筋が広がりました。秋田の田舎から世界へ、今後は地元や日本全国はもちろん、海外の方に、きむらやの「いぶりがっこ」と「秋田漬物」、そして秋田の発酵文化の素晴らしさを発信していきたいと思っています。また、"人財"が伸び伸びと個性と持ち味を発揮できる企業に成長していきたいと思います。

コーディネーターから見た事業参画型インターンシップ

企業と人材をつなぎ、次の世代へ希望を受け継ぐ

みちのくreMakers（リメイカーズ）合同会社
代表　豊留（とよどめ） 侑莉佳（ゆりか）さん

元湯沢市地域おこし協力隊。インターンシップの導入・設計などのコーディネーターとして活躍。

事業参画型インターンシップは、採用や職場見学が目的の一般的なプログラムと違い、企業の新展開創出や社内変革の起爆剤として若者の力を借りることが目的のプログラムです。経営者の右腕となって1カ月から4カ月間、未来の企業経営のための仮説検証に取り組みます。

加藤さんのように、インターン先に入社した事例は、企業や地域にとって希望を与えてくれる結果になりました。学生の受け入れをコストではなく、人材育成への投資と捉え、繰り返し受け入れを行った企業の姿勢が、今回のポイントだと考えています。

また、予想外だったことは、過去に参加した学生の約半数が、企業との関係性を継続していることです。就職先で受入企業の商品を取り扱ったり、新しい営業先をつないでくれたりといった、関係人口化につながった例も確認しています。必ずしも雇用という形ではなく、社外営業マンや企業のファン＝未来のお客さま（イコール）とつながるという考え方もできますね。

地域にチャレンジの連鎖が生まれ、湯沢でのキャリアに魅力を感じる若者が増えることにつながればうれしいです。

熱意ある学生と、未来を見据えて新しいチャレンジをしたいと考える市内経営者が、この事業を通じてさまざまな課題解決に取り組んできました。

企業にとって学生の視点やアイデアは、新しいことへチャレンジするきっかけとなり、学生にとっては企業で経験を積むことで、その企業の魅力や働きがいを実感し、能力や適性などを見つめ直す機会となります。さらには、学生との交流が事業者同士または事業者と顧客との架け橋となるなど、関係人口の創出にもつながっています。

事業参画型インターンシップの過去の導入事例は市ホームページをご覧ください。

▼市ホームページ

問商工課物産振興班（☎73-2135）